



地味チョウシリーズ⑥

コキマダラセセリ

Ochlodes venatus





▲産卵する♀ (1977. 7. 28 渡島管内八雲町落部)

今回もセセリの普通種コキマダラセセリ。

またまた「道新本」の頃の話から始めます。

メインのこの写真は相棒辻氏の写真。ばっちり産卵しています。この写真は何かイネ科の雑草に産んでいますが種名はわかりません。オオチャバネ同様、幼生期の記述はイマイチ自信がなく、「幼虫の越冬時の齢数は不明であるが、おそらく3齢以降。今後の調査の必要がある。」と書きました。バイブルの保育社の「生態図鑑」にも詳しい情報はありません。あれから40年も経っているのですが、越冬～越冬明けの生態は結構謎です。それでも今持っている情報を全部出してみましよう。

成虫いろいろ ①

コキマダラ君は北海道内では家のまわりの花畑にもよく見られる普通のチョウ。本州では産地に限られて、暖温帯の四国や九州には分布していません。地味チョウではありますが、少しかっこいい写真を並べましょう。下の写真は♀でクサフジで吸蜜しています。♂♀の違いは翅の表ではっきりと判ります。



クサフジで吸蜜する♀ 2013・7・20 伊達市

♂では右の写真の矢印で示した性標がみられます。



フキの葉の上の♂ 2016・7・17 旭川市



アカツメクサで吸蜜する♀ 2013・8・8 富良野市

成虫いろいろ ③

求愛行動について2015年7月15日に教育大旭川の中庭で観察、撮影したものを紹介します。♀がハナヒリソウで吸蜜しています。（右A写真）そこにオスがやってきて求愛行動を仕掛けました。（下の①～④写真）②の写真で最接近しますが♀は翅を広げパタパタ開閉し交尾拒否します。③で♂は体制を再度建て直し④でもう一度アタックしますが、拒否されてそのまま♂はあきらめて飛び去りました。♀はそのまま吸蜜を続けました。（右写真B）



A 9:33



B 9:36



① 9:34



② 9:34



③ 9:34



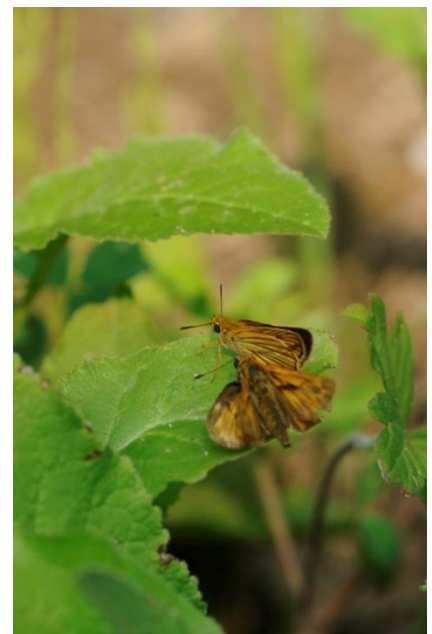
④ 9:34

成虫いろいろ ③

ここに載せた写真は2018年7月18日の我が家周辺に来ていたコキマ君とそのお友達たちです。コキマ君は隣の庭の西洋マツムシソウが大好きで吸蜜に来ます。（写真下）そのうちめは♀に求愛行動を始めました。（右写真）この♀は交尾済みのようで逃げてしまいました。そうこうするうちにオオチャバネの雄に見つかってアタックされました。（写真下中）このときは♀は交尾拒否の翅パタパタはしませんでした。交尾を待っていたのかもしれませんが。オオチャバネがなんか変だと気が付いたのかこの後飛んでいきました。数日後こんどはコキマの雄がスジチャの♀にアタックしていました。（写真下右端）この時もパタパタはしませんでした。この♀も未交尾だったのかもしれませんが。ヒメチャの交配実験で解ったですが交尾を待つ♀は翅を閉じてじっとしています。異種に交尾を迫られたこの♀たちにも何かのブレーキがかかって未遂に終わったのかもしれませんが。



♀に尻をまげバルバを広げてアタックする♂



成虫いろいろ ③

コキマダラ君の産卵です。我が屋の庭ではひ弱なイネ科雑草（コヌカグサ？）によく産んでいます。種名はまだ同定してもらっていません。腹を強く曲げて葉の表面によく産み付けます。産卵シーンは撮れませんでした。クサヨシにも産んでいました。（右卵写真。）さてこれから結構観察が難しくなるのです。



イネ科の小さな株に産卵 2007・8・3 富良野



（同左）

幼生期 ①

さて謎の幼生期のことです。「道新本」には富良野で撮った終齢幼虫の写真がありますが、実はその発行直後に越冬明けの幼虫の写真を撮っていて「完本」に採用しました。右の写真です。これは1986年5月12日にシロオビヒメの幼虫探しの時に偶然発見したものです。枯葉を綴った巣の中にいます。脱皮直前のようなのですが当然齢数はわかりません。周りのイネ科植物はおそらくナガハグサ系の外来種です。(シロオビヒメも食べている)日付から越冬明けから2週間くらいでしょうか。枯葉に巣をつくり周りの食草を食べて(奥に食痕が見えます。)次の脱皮に入る眠に入ったように見えます。これは幼虫がどのように越冬するのかを知るうえで結構重要な写真だと今思っています。越冬前後の幼虫がなかなか見つからないのです。さてまずは産卵後から断片的な情報を並べていくことにします。下左の写真はふ化直後の幼虫です食草の葉の一部を折り返した巣をつくり端っこを少し食べ始めています。右下はクサヨシに造った巣で2齢幼虫です。



イネ科の食草脇の枯葉にいた幼虫 1986・5・12 富良野

幼虫はおそらく産み付けられた食草の先端部に小さな巣をつくり、ゆっくり成長していきます。道東ではカラタカとかぶりますが、その頃こんな小さな幼虫がいれば大方コキマ君です。



イネ科の食草に巣をつくる1齢幼虫 2013・8・3 伊達市



クサヨシに巣をつくっていた2齢幼虫 2015・9・5 富良野

幼生期 ②

幼生期の観察は「完本」発行後もすすみました。2016年には我が家の庭のススキに巣をつくっていた（写真右）ので、これはいいぞ、冬越しまでいけるかなと追いかけてきました。9月17日の巣造りの最後の部分を時間を追って紹介しましょう。

①11：58から巣の中から7本目の糸の補強をしています。その後葉の内部に吐糸をします。②12：02になって8本目の新しい糸を掛け始めました。4分かけて往復120回糸を掛けました。その後糸掛けを小休止し巣の内部を吐糸しました。③12：12分から再度糸掛けを始めました。約8分かけて215回往復の糸掛けをして最後は、頭をひっこめて巣の内側から糸を掛け（④）て12：20分に頭をひっこめました。巣の内部の吐糸→頭を出して糸掛け→内部の吐糸→内部からの糸掛けという順に進むようです。1本の綴じ糸に往復335回糸掛けをしました。この巣は8本の綴じ糸があるので巣をつくるために計2680回も頭を振って糸を掛けたことになります。巣造りは大変だ。



糸かけを始める前の巣
長さ25mm 幼虫体長11mm



幼生期 ③

2016年の幼虫は10月に入ると食が細くなり、体もずんぐりしてきました。右下の写真は最後に確認した姿（約15mm）で、この後巣を切り落としてしまいました。その巣が見つからず行方不明になりました。残念。



巣から出て摂食 2016・10・1 富良野

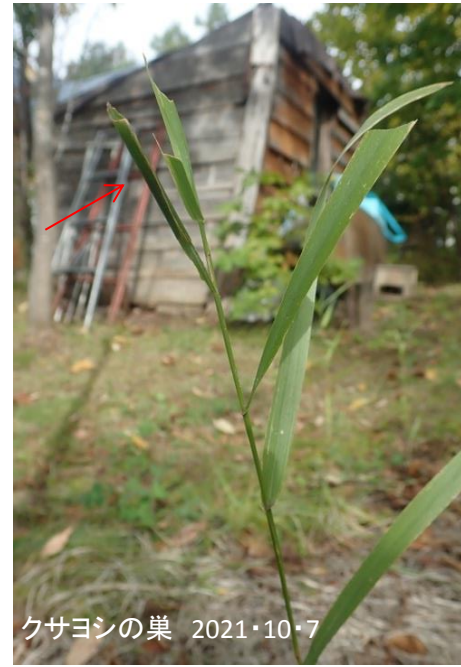


巣の中の幼虫 2016・10・24 富良野

2021年にも庭のススキ1匹とクサヨシについた幼虫3匹を少し追いかけてきましたが（右写真）、この時も11月に入りすべて行方不明になりました。巣を切り落とす習性は確かにありますが、巣から離れて地面の方へ移動することもありそうです。齢数も3齢以上には育っていますがよくわかりません。そしてさらに越冬後の様子がよくわからなくなってしまうのです。普通種ですが生活史はまだわからないところがあるのです。



ススキの巣と幼虫 2021・10・7



クサヨシの巣 2021・10・7



巣の中にはいなかった 2021・11・1

幼生期 ④

越冬後の幼虫は5月の末頃、ススキやクサヨシの株から新しい葉が十分伸び始めてきてから割と容易に見つかり始めます。幅広の葉には筒型の巣をつくりますが、幼虫が大きくなってくると葉を寄せ集めた巣をつくります。結構乱雑に葉を重ねたのもあります。（写真右）

6月下旬になると葉を綴じあわせ、内部にしっかり糸を掛けて前蛹になります。2, 3日たって蛹になります。蛹の頭部と尾部周辺に粉上の蠟状物質が付着しています。何のためにあるのでしょうか？



巢に糸を掛ける 2018・5・29 旭川



巢の中の幼虫 2014・6・11 東川



終齢の巢 2018・7・4 富良野



成熟した終齢 2024・6・25 富良野



巢の中の前蛹 2018・7・4 富良野



巢の中の蛹 2015・7・3 富良野

以上で、ながもりの観察部分は終了しますが、
相棒の辻氏の観察記録を第2弾として載せま
すのでご覧ください。

